

## 第4章 課題の整理

教育を取り巻く社会的な環境の変化、本市の教育環境、第1期計画の検証結果に加え、今回の教育振興基本計画策定のために実施したアンケートやヒアリング、その他の関連計画策定のために実施したアンケート調査から見えてくる主な課題は以下のとおりです。（アンケート、ヒアリングの詳細は「資料編」をご覧ください。）

### <学力の育成>

|                   |  |
|-------------------|--|
| 「まごころ」教育の推進       | 中央市の教育の基本である「まごころ」について、学校現場にも市民等にも周知や理解が進んでいない。「まごころ」は、人格の形成や健全な社会生活を営むうえで最も重要なものであり、第2次中央市長期総合計画においても「道徳心を重んじた教育など豊かな心を育む教育の充実」が基本施策として掲げられているため、「まごころ」教育について、学校教育を中心に市民全体に浸透させ、「知っている」、「常に意識している」人の割合を増やす取組をする必要がある。 |
| 子どもたちに必要な資質・能力の育成 | 未来を生き抜く子どもたちが身に付けるべき能力は、課題発見・解決能力、自ら決めた目標に向かい粘り強くとりくむ能力、いろいろな人とコミュニケーションがとれる能力など多岐にわたっている。これらの能力は、子どもがいろいろなことに興味をもち、さまざまな体験をすることで徐々に身に付いていく。自己肯定感を高め、安心して自らさまざまなことにチャレンジできるようにする子どもを育てる取組が求められる。                       |
| 学校と家庭や地域社会の連携     | 多くの市民が、地域での子どもとの関わりが少なくなっていると感じている。核家族化や少子化、一人親世帯の増加など子どもを取り巻く環境が変化し、家庭の教育力の低下も問題となっているため、地域全体で子どもを育てる取組が求められる。  |
| 学校活動への協力          | 市民や保護者の多くが、学校に対してなんらかの協力をしたいと思っており、また学校も保護者や地域住民の力を学校運営に貸してほしいと思っているが、そのしくみが確立していない。今後は、学校と地域をつなぐしくみを作る取組が求められる。   |
| 携帯電話、スマートフォンの利用   | 小学生で約6割、中学生で約8割の子どもが携帯電話やスマートフォンを使用しており、一律使用禁止は現実的ではなくなっている。安全で正しい使用ができるよう、児童生徒だけではなく保護者に対しても対策を講じていくことが求められる。   |
| 読書、スポーツ活動         | 小学校から中学校へ進学すると、読書やスポーツをする頻度が減ってしまうため、維持・継続していけるような取組が必要である。  |
| 外国語教育             | 児童生徒とも英語に対して苦手意識を感じている傾向がある。また保護者は「外国人英語補助教員を増やすなど、外国語教育の充実」への意向が高い。新学習指導要領において英語が教科化されるので、英語を中心とした外国語   |

|          |   |
|----------|---|
|          | 活動を推進し、学習意欲の向上と、会話力の向上を図る取組が求められる。  |
| 家庭教育やしつけ | 基本的な生活習慣や社会的マナー、倫理観等、人格形成の基盤は家庭における教育によって培われるが、親は家庭での子どものしつけや教育が十分でないと思っている。学校も「家庭の教育力」を課題の一つに挙げているため、家庭教育にかかる情報発信や教育相談体制の充実を図るとともに、学校・家庭・地域・行政が協力して子どものしつけや教育に取り組む必要がある。 |

#### <生涯教育・生涯スポーツ>

|           |   |
|-----------|---|
| 生涯教育の普及   | 生涯学習を「今はしていないが、今後してみたいと思う」が約5割半で最も多くなっている。生涯学習をさらに盛んにするためには、「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」という要望が多いが、単純に施設数を増やすだけでなく、市民ニーズに合った魅力的な講座やイベント、施設づくりを行い、多くの人に足を運んでもらえるような取組が求められる。 |
| 図書館の利用    | 市の図書館の利用状況については、「利用していない」が約4割半で最も多くなっており、今後、多くの市民に利用してもらえるような取組が求められる。  |
| 生涯スポーツの普及 | 運動やスポーツへの取組状況は「運動やスポーツをしていない」割合が6割半となっており、今まで以上に運動やスポーツを振興するためには、「場所」、「時間」、「活動内容の提供」の要望が上位にきている。また行政に対して「施設・設備の充実」を求めている。これらの意向をふまえた効果的な対策が求められる。                     |
| 文化芸術の振興   | 市の文化芸術の振興のためには、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が求められている。   |

#### <教育環境の整備>

|                      |   |
|----------------------|---|
| 教員の多忙化               | 教員の9割が「校務」に多忙感を感じており、「十分な授業準備」が「できていない」「どちらかというできていない」と感じる教員が2割を超えている。「保護者対応の複雑化」や「特別な支援が必要な児童生徒への教育支援体制の充実」を課題と考える教員が多く、教員の多忙化改善に向けた取組が求められている。                      |
| 子どもが抱える社会的背景の多様化への対応 | 子どもたちは、貧困、ひとり親などさまざまな問題を抱えており、支援の充実が求められる。また学校では外国につながる児童生徒が急激に増えており、教員の加配、ボランティアの活用などの取組が必要である。  |
| 外国籍住民との共生            | 外国籍住民とともに、より暮らしやすい地域社会を築くためには、「外国籍住民に対する差別意識を持たないようにする」が約5割と最も多く、次いで、「日本で生活するルールを外国籍住民が守るように呼びかける」が約4割となっている。市には多くの外国籍住民が在住しているため、学校教育や地域での交流を通して多様性への理解を深める取組が必要である。 |

|                |   |
|----------------|---|
| 学習支援           | <p>学校の長期休暇や放課後に学習支援をして欲しいという要望がある。</p> <p>市内で活躍する学習ボランティア団体や大学などと連携して、学校以外での学習支援活動を支援していくことが求められる。</p>  |
| 小学校と保育園、幼稚園の連携 | <p>保育園・幼稚園と小学校1年生のカリキュラムの把握が進んでいない。教員同士の交流を盛んにし、お互いのカリキュラムをお互いに把握しておくことで、幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向けた取組が求められる。</p> <p>また、「小1プロブレム」(小学校に入学したばかりの1年生が、(1)集団行動がとれない(2)授業中に座ってられない(3)先生の話听不懂、など学校生活になじめない状態)への対応するための取組等が求められる。</p> |